

○東温市広告掲載基準

平成27年1月23日

訓令第1号

(趣旨)

第1条 この訓令は、東温市有料広告取扱要綱（平成18年東温市告示第86号。以下「要綱」という。）第4条第2項の規定に基づき、広告掲載に係る基準を定めるものとする。

(広告掲載の基本的な考え方)

第2条 市の広告媒体に掲載する広告は、社会的に信用度の高い情報でなければならないため、広告内容及び表現は、それにふさわしい信用性と信頼性を持てるものでなければならない。

(広告を掲載しない業種又は事業者)

第3条 次に定める業種又は事業者は、広告掲載を行わない。

- (1) 風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律（昭和23年法律第122号）第2条に規定する風俗営業及び性風俗関連特殊営業に該当する業種
- (2) 貸金業法（昭和58年法律第32号）に規定する貸金業のうち、専ら消費者金融業及び事業者金融業を営む事業者
- (3) たばこに関する業種
- (4) ギャンブル（公営競技、当せん金付証票法（昭和23年法律第122号）に基づき発行される宝くじ及びスポーツ振興投票の実施等に関する法律（平成10年法律第63号）に基づき発行されるスポーツ振興投票は除く。以下同じ。）に関する業種
- (5) 占い又は運勢判断に関する業種
- (6) 債権取立て、示談引受け等に関する業種
- (7) インターネット異性紹介事業を利用して児童を誘引する行為の規制等に関する法律（平成15年法律第83号）に規定するインターネット異性

紹介事業を行う事業者

- (8) 特定商取引に関する法律（昭和51年法律第57号。以下「特商法」という。）に規定する訪問販売、通信販売、電話勧誘販売、連鎖販売取引、業務提供誘引販売取引及び訪問購入を行う事業者。ただし、通信販売に関しては、特商法第30条に規定する通信販売協会に加盟している事業者のほか、協会には加盟していないが、主たる業態が常設店舗で販売を行う事業者で、本市が妥当と判断するものを除く。
- (9) 医療、医薬品、化粧品等の広告で医療法（昭和23年法律第205号）、薬事法（昭和35年法律第145号）等に抵触するもの
- (10) 法律の定めのない医療類似行為を行う事業者
- (11) 興信所、探偵事務所等を営む事業者
- (12) 民事再生法（平成11年法律第225号）による再生手続及び会社更生法（平成14年法律第154号）による更生手続中の事業者
- (13) 暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成3年法律第77号。以下この号において「法」という。）第2条第2号に規定する暴力団及び法第2条第6号に規定する暴力団員又は暴力団関係事業者（暴力団員が実質的に経営を支配する事業者その他法第2条第2号に規定する暴力団又は法第2条第6号に規定する暴力団員と密接な関係を有する事業者をいう。）に該当するもの
- (14) 社会問題を起こしている業種又は事業者
- (15) 行政機関からの行政指導を受け、改善がなされていないもの
- (16) 東温市建築工事入札参加資格停止措置要綱（平成19年東温市訓令第39号）に規定する入札参加資格停止処分を受けているもの
- (17) その他市の資産を広告媒体とする広告に係る業種又は事業者として適当でないと認められるもの
(広告掲載の基準)

第4条 要綱第4条第1項各号の基準は、別表第1のとおりとする。

2 広告表示内容についての業種ごとの基準は、別表第2のとおりとする。

(ウェブページに関する基準)

第5条 ウェブページへ掲載する広告に関しては、ウェブページに掲載する広告だけでなく、当該広告がリンクしている他のウェブページの内容についても、ウェブページの性質上可能な範囲かつ社会通念上合理的な範囲で、この基準の全部又は一部を適用する。

2 他のウェブページを集合し、情報提供することを主たる目的とするウェブページで、要綱及びこの基準その他の市が定める広告に関する規定に反する内容を取り扱うウェブページを閲覧者にあっせん又は紹介しているウェブページの広告は、掲載しない。

(広告媒体ごとの基準)

第6条 この基準に規定するもののほか、広告媒体の性質に応じて、広告内容、デザイン等に関する個別の基準が必要な場合は、別途基準を作成することができる。

附 則

(施行期日)

この訓令は、平成27年1月23日から施行する。

別表第1（第3条関係）

区分	基準
1 法令等に違反するもの又はそのおそれがあるもの	(1) 法令等により製造、販売、提供等をすることが禁止されている商品又はサービスを提供するもの (2) 法令等に基づく許認可等を受けていない商品又はサービスを提供するもの (3) その他粗悪品等広告媒体への掲載が適当でないと認められる商品又はサービスの提供に係るもの
2 公序良俗に反するもの又は	(1) 暴力、賭博、覚醒剤等規制薬物の乱用、売春等の行為を推奨し、肯定し、又は美化したもの

	そのおそれがあるもの	(2) 醜悪、残虐、猟奇的である等公衆に不快感を与えるおそれがあるもの (3) 性に関する表現で、露骨、わいせつなもの又は裸体を含むもの (4) 犯罪を誘発するもの又はそのおそれがあるもの (5) その他社会的秩序を乱すおそれがあるもの
3	基本的人権を侵害するもの又はそのおそれがあるもの	(1) 他人を誹謗し、中傷し、若しくは排斥し、他人の名誉若しくは信用を毀損し、若しくは他人の業務を妨害するもの又はそのおそれがあるもの (2) 人種、性別、心身の障害等に関する差別的な表現その他不当な差別につながる表現等を含み、基本的人権を侵害するもの又はそのおそれがあるもの (3) 第三者の氏名、写真、談話及び商標、著作権その他の財産権を無断で使用したもの若しくはプライバシー等を侵害するもの又はそのおそれがあるもの
4	政治性のあるもの又は選挙に関するもの	(1) 政治団体による政治活動を目的とするもの又はそのおそれがあるもの（政党広告を含む。） (2) 公の選挙若しくは投票の事前運動に該当するもの又はそのおそれがあるもの（選挙広告を含む。）
5	宗教性のあるもの又は迷信若しくは非科学的なものに関するもの	(1) 宗教団体による布教推進等を目的とするもの又はそのおそれがあるもの (2) 迷信又は非科学的なものに類するもので、利用者を惑わせたり、不安を与えたりするおそれがあるもの
6	社会問題についての主義主張に関するもの	(1) 個人又は団体の意見広告 (2) 国内世論が大きく分かれているもの

の		
7	美観風致を害するおそれがあるもの	<p>(1) 色、デザイン等が景観と著しく違和感があること、意味が不明であること等により公衆に不快感を起こさせるもの</p> <p>(2) 地域のルール及び慣習によって形成してきた景観や文化にそぐわないもの</p> <p>(3) 自動車等運転者の誤解を招き、注意力を散漫にするおそれがある等により、交通安全を阻害するおそれがあるもの</p> <p>(4) その他良好な景観の形成及び風致の維持を害するおそれがあるもの</p>
8	内容又は責任の所在が不明確なもの	<p>(1) 代理店募集、副業、内職、会員募集等で、その目的、内容又は責任の所在が不明確なもの</p> <p>(2) 通信販売で、連絡先、商品名、内容、価格、送料、数量、引渡し、支払方法、返品条件等が不明確なもの</p> <p>(3) 通信教育、講習会、塾、学校その他これらに類する名称を用いたもので、その実体、内容又は施設が不明確なもの</p> <p>(4) 外国に本校又は本部のある学校の日本校等で、学校教育法（昭和22年法律第26号）に基づく学校ではないにもかかわらず、その旨表示されていないもの</p>
9	虚偽若しくは誇大であるもの又はその疑いがあるもの、事実を誤認するおそれがある	<p>(1) 誇大な表現及び根拠のない表示や誤認を招くような表現を含むもの 例）「世界一」、「一番安い」、「当社だけ」等（掲載に際して根拠となる資料が必要）</p> <p>(2) 投機心又は射幸心を著しくあおる表示又は表現を含むもの</p>

	<p>ものその他 消費者被害の 未然防止及び 拡大防止の觀 点から適切で ないもの</p> <p>例) 「今が最後のチャンス（今、購入しないと次はない という意味）」等</p> <p>(3)社会的に認められていない許認可、保証、賞、資格等 を使用して権威付けようとするもの</p> <p>(4)虚偽の内容を表示するもの</p> <p>(5)法令等に違反する業種、商法又は商品</p> <p>(6)国家資格等に基づかない者が行う療法等</p> <p>(7)投資信託等の広告で、元本等が保証されているかのよ うに誤認させる表現のもの</p> <p>(8)自己の供給する商品等について、これと競争關係にあ る特定の商品等を比較対象商品等として明示し、又は暗 示するもの</p> <p>(9)商品等の内容又は取引条件を比較するもので、二重価 格表示があるもの及び第三者が推奨し、又は保証する記 述があるもの</p> <p>(10)広告主が他人又は他人の事業、商品等の広告をするも の</p> <p>(11)国、地方公共団体その他の公共機関が、広告主又はそ の商品やサービス等を推奨、保証、指定等をしているか のような表現のもの（国、地方公共団体その他の公共機 関が別に認証等を行っている商品やサービス等に係る ものを除く。）</p> <p>(12)その他消費者を誤認させるおそれがある表示又は表 現（編集記事とまぎらわしい体裁・表現で、広告である ことが不明確なものを含む。）を含むもの</p>
10 青少年保護及 び健全育成の	(1)水着姿、裸体姿等で広告内容に無関係で必然性のない もの。ただし、出品作品の一例、広告内容に関連する等

	観点から適切でないもの	<p>表示する必然性がある場合は、その都度適否を検討するものとする。</p> <p>(2) 暴力や犯罪を肯定し、又は助長するような表現</p> <p>(3) 残酷な描写等善良な風俗に反するような表現</p> <p>(4) 暴力又はわいせつ性を連想又は想起させるもの</p> <p>(5) ギャンブル等を肯定するもの</p> <p>(6) 青少年の人体、精神又は教育に有害なもの</p>
11	前各号に掲げるもののほか、広告媒体に掲載する広告として適当でないと市長が認めるもの	<p>(1) 品位を損なう表現のもの</p> <p>(2) 詐欺的なもの又はいわゆる不良商法とみなされるもの</p> <p>(3) 私設私書箱、電話代行サービス等に関するもの</p> <p>(4) 懸賞広告及びクーポンつき広告</p> <p>(5) 債権取立て、示談引受け等に関するもの</p> <p>(6) 通貨及び郵便切手を複写したもの</p> <p>(7) 謝罪、釈明等に関するもの</p> <p>(8) 尋ね人、養子縁組等に関するもの</p> <p>(9) 暴力団又は暴力団の構成員を賞揚し、若しくは鼓舞し、又は暴力団排除活動に異論を唱える内容を含むもの</p> <p>(10) デザイン及び色彩が著しく派手で品位を欠き、広告媒体との調和を損なうと認められるもの</p> <p>(11) その他社会的に不適切なもの</p>

別表第2（第3条関係）

区分		基準
1	人材募集	<p>(1) 労働基準法（昭和22年法律第49号）等関係法令を遵守していること。</p> <p>(2) 人材募集に見せかけて、売春等の勧誘やあっせんの疑いのあるものは掲載しない。</p> <p>(3) 人材募集に見せかけて、商品、材料及び機材の売りつ</p>

		けや資金集めを目的としているものは掲載しない。
2	語学教室、学習塾家庭教師、パソコン教室等	(1) 安易さや授業料・受講料の安価さを強調する表現は使用しない。 例) 「1か月で確実にマスターできる。」等
3	予備校、専門学校等	(1) 合格率等の実績を載せる場合は、事実や客観的な根拠に基づいたものとし、実績年も併せて表示すること。
4	外国大学の日本校	(1) 日本の学校教育法に定める大学でない旨を明確に表示すること。
5	資格講座	(1) 民間の講習業者が「労務管理士」等の名称で資格講座を設け、それがたかも国家資格であり、各企業は労務管理士を置かなければならぬという誤解を招くような表現は使用せず、当該資格が国家資格ではない旨を明確に表示する。 (2) 「行政書士講座」等の講座には、その講座だけで国家資格が取れるというような紛らわしい表現は使用せず、当該資格取得には、別に国家試験を受ける必要がある旨を明確に表示する。 (3) 資格講座の募集に見せかけて、商品及び材料の売りつけや資金集めを目的としているものは掲載しない。 (4) 受講費用がすべて公的給付でまかなえるかのように誤認される表示はしない。
6	病院、診療所又は助産所	(1) 医療法(昭和23年法律第205号)第6条の5又は第6条の7、関連法令、厚生労働省の告示、同省の医療広告ガイドラインに定める広告規制等の関連既定に反しないこと。 (2) 提供する医療の内容が他の医療機関等と比較して優良である旨の表示はしてはならない。 (3) 広告する治療方法について、疾病等が完全に治癒され

		<p>る等その効果を推測的に述べることはできない。</p> <p>(4)マークを表示することは可能であるが、そのマークが示す内容を文字により併記しなければならない。また、赤十字のマークや名称を自由に用いることはできない。</p>
7	施術所（あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう、柔道整復）	<p>(1)あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律（昭和22年法律第217号）第7条又は柔道整復師法（昭和45年法律第19号）第24条の規定により広告できる事項以外は、一切広告できない。</p> <p>(2)施術者の技能、施術方法又は経歴に関する事項は広告できない。</p> <p>(3)法定の施術所以外の医療類似行為を行う施設（整体院、カイロプラクティック、エステティック等）の広告は掲載できない。</p>
8	薬局又は薬店及び医薬品、医薬部外品、化粧品又は医療機器（健康器具、コンタクトレンズ等）広告を掲載する事業者	<p>(1)薬事法（昭和35年法律第145号）第66条から第68条の規定及び厚生労働省の医薬品等適性広告基準の規定並びに各法令所管省庁の通知等に定められた規定に反しないこと。</p> <p>(2)医療機器については、厚生労働省の承認番号を記載すること。</p> <p>(3)広告を掲載する事業者が、事業者所在地を所管する地方自治体の薬務担当部署において広告内容が適法又は適正であることについて確認をとっていること。</p>
9	健康食品、保健機能食品、特別用途食品広告を掲載する事業者	<p>(1)健康増進法第32条の2、薬事法第68条、食品衛生法第20条並びに各法令の所管行政庁の通知等に定められた規定に反しないこと。</p> <p>(2)健康食品は、医薬品と誤認されるような効能及び効果については表示できない。</p>

		<p>(3) 保健機能食品及び特別用途食品については、広告内容が国及び法令により認められている表示事項の範囲を超えていないこと。かつ、法令等により定められている表示すべき事項が記載されていること。</p> <p>(4) 広告を掲載する事業者が、事業者所在地を所管する地方自治体の薬務担当部署及び食品担当部署において広告内容が適法、適正であることについて確認をとっていること。</p>
10	介護保険法（平成9年法律第123号）に規定するサービス、その他高齢者福祉サービス	<p>(1) サービス全般（介護老人保健施設を除く。）</p> <p>ア 介護保険法に規定する介護保険の保険給付対象となるサービスとそれ以外のサービスを明確に区別し、誤解を招く表現を用いないこと。</p> <p>イ 広告掲載主体に関する表示は、法人名、代表者名、所在地、連絡先、担当者名等に限る。</p> <p>ウ 利用に当たって有利であると誤解を招くような表示はできない。</p> <p>例）「〇〇市事業受託事業者」等</p> <p>(2) 介護老人保健施設</p> <p>介護保険法第98条の規定により広告できる事項以外は一切広告できない。</p> <p>(3) 有料老人ホーム</p> <p>ア 有料老人ホーム設置運営標準指導指針（平成14年7月18日付け厚生労働省老健局長通知）に規定する事項を遵守し、同指針別表「有料老人ホームの類型及び表示事項」の各類型の表示事項はすべて表示すること。</p> <p>イ 所管都道府県の指導に基づいたものであること。</p> <p>ウ 有料老人ホームに関する不当な表示（平成16年公正</p>

		<p>取引委員会告示第3号) 及び同表示の運用基準にふれないこと。</p> <p>(4) 有料老人ホームの紹介業</p> <p>ア 広告掲載主体に関する表示は、法人名、代表者名、所在地、連絡先、担当者名等に限る。</p> <p>イ 利用に当たって有利であると誤解を招くような表示はできない。</p>
11	墓地等	<p>(1) 都道府県知事又は市長の許可を取得し、許可年月日、許可番号及び経営者名を明記する。</p>
12	動物の診療施設、動物取扱業(ペットショップ、動物訓練所等)	<p>(1) 獣医療法(平成4年法律第46号)第17条の規定により広告できる事項以外は、一切広告できない。</p> <p>(2) 広告の内容については、動物の愛護及び管理に関する法律(昭和48年法律第105号)を遵守すること。</p>
13	不動産事業	<p>(1) 広告掲載主体に関する表示には、名称、所在地、連絡先、認可免許証番号等を明記する。</p> <p>(2) 不動産の売買や賃貸の広告には、取引様態、物件所在地、面積、建築年月日、価格、賃料及び取引条件の有効期限を明記する。</p> <p>(3) 不動産の表示に関する公正競争規約(平成17年公正取引委員会告示第23号)による表示規制に従う。</p> <p>(4) 契約を急がせるような表示のものは掲載しない。 例) 「早い者勝ち」、「残り戸数あとわずか」等</p>
14	弁護士、公認会計士、税理士、司法書士、行政書士等	<p>(1) 掲載内容は、名称、所在地、一般的な事業案内等に限定し、顧問先又は依頼者名の表示はしない。</p>

15	旅行業	<p>(1) 旅行業法（昭和27年法律第239号）及び旅行業公正取引協議会の公正競争規約に従うこと。</p> <p>(2) 企画旅行の広告は、旅行又は旅行代理店業者名、登録番号、所在地等を明記する。</p> <p>(3) 不当表示に注意する。</p> <p>例）「白夜でない時期の「白夜旅行」」、「行程にない場所の写真」等</p>
16	通信販売業	<p>(1) 会社の概要及び商品カタログ等を検討し、本市が妥当と判断したものに限り掲載する。</p> <p>(2) 特商法第11条に規定する表示事項はすべて表示すること。</p> <p>(3) 特商法第12条、関連法冷等の規定に反しないこと。表示事項等については、著しく事実に相違する表示をし、又は実際のものよりも著しく優良であり、若しくは有利であると人を誤認させるような表示をしてはならない。</p>
17	雑誌、週刊誌等	<p>(1) 適正な品位を保った広告であること。</p> <p>(2) 見出しや写真の性的表現等は、青少年保護等の点で適正なもの及び不快感を与えないものであること。</p> <p>(3) 性犯罪を誘発又は助長するような表現、文言又は写真がないものであること。</p> <p>(4) 性犯罪又は殺人事件の被害者その他の犯罪被害者の人権及びプライバシーを不当に侵害するような表現がないものであること。</p> <p>(5) タレント等有名人の個人的行動に関しても、プライバシーを尊重し節度を持った配慮のある表現であること。</p> <p>(6) 犯罪事実の報道の見出しについて、残虐な言葉やセンセーショナルな言い回しを避け、不快の念を与えないも</p>

		<p>のであること。</p> <p>(7) 未成年、心神喪失者等の犯罪に関連した広告では、氏名及び写真は原則として表示しない。</p> <p>(8) 公の秩序及び善良な風俗に反する表現のないものであること。</p>
18	映画、興業等	<p>(1) 暴力、賭博、麻薬及び売春等の行為を容認するような内容のものは掲載しない。</p> <p>(2) 性に関する表現で、扇情的、露骨及びわいせつなものは掲載しない。</p> <p>(3) いたずらに好奇心に訴えるものは掲載しない。</p> <p>(4) 内容を極端にゆがめ、一部分のみを誇張した表現等は使用しない。</p> <p>(5) ショッキングなデザインは使用しない。</p> <p>(6) その他青少年に悪影響を与えるおそれのあるものは掲載しない。</p> <p>(7) 年齢制限等一部規制を受けるものはその内容を表示する。</p>
19	古物商、リサイクルショップ等	<p>(1) 営業形態に応じて、必要な法令等に基づく許可等を受けていること。</p> <p>(2) 一般廃棄物処理業に係る市長の許可を取得していない場合は、廃棄物を処理できる旨の表示はできない。 例) 「回収」、「引取り」、「処理」、「処分」、「撤去」、「廃棄」等</p>
20	結婚相談所、交際紹介業等	<p>(1) 結婚情報サービス協議会に加盟していること（加盟証明が必要）を明記する。</p> <p>(2) 掲載内容は、名称、所在地、一般的な事業案内等に限定する。</p>

21	労働組合等一定の社会的立場と主張を持った組織	(1)掲載内容は、名称、所在地、一般的な事業案内等に限定する。 (2)主張の展開及び他の団体に対して言及、批判、中傷等する出版物の広告は掲載しない。
22	募金等	(1)募金内容は、社会福祉事業のための寄附金募集に限る。 (2)厚生労働大臣又は都道府県知事の許可を受けており、掲載する広告には下記の主旨を明確に表示すること。 例)「〇〇募金は、〇〇知事の許可を受けた募金活動です。」等
23	質屋及びチケット等再販売業	(1)個々の相場、金額等の表示はしない。 例)「〇〇〇のバッグ50,000円」、「航空券 東京～福岡 15,000円」等 (2)有利さを誤認させるような表示はしない。
24	トランクルーム及び貸し収納業者	(1)トランクルームは、倉庫業法（昭和31年法律第121号）第25条の規定により認定を受けた優良トランクルームであること。また、その旨を表示すること。 (2)貸し収納業者は会社名以外にトランクルームの名称は使用しない。また、下記の主旨を明確に表示すること。 例)「当社の〇〇は、倉庫業法に基づく”トランクルーム”ではありません。」等
25	ダイヤルサービス	(1)各種ダイヤルサービスは内容を確認の上判断する。
26	ウイークリーマンション等	(1)営業形態に応じて、必要な法令等に基づく許可等を受けていること。
27	規制業種の企業による規制業種に関する	(1)第2条で定める規制業種に該当する企業による規制業種に関連するもの以外の内容の広告は、この基準に定められた規制の範囲内でその掲載を認める。

	もの以外の内容の広告	
28	その他表示について注意を要するもの	<p>(1) 割引価格を表示する場合、対象となる元の価格の根拠を明示すること。 例) 「メーカー希望小売価格の30%引き」等</p> <p>(2) 比較広告については、主張する内容が客観的に実証されていること（根拠となる資料が必要）。</p> <p>(3) 無料で参加・体験できるものについては、費用がかかることがある場合、その旨を明示すること。 例) 「昼食代は実費負担」、「入会金は別途かかります。」等</p> <p>(4) 責任の所在、内容及び目的が不明確な広告については、広告主の法人格、法人名、所在地及び連絡先を明確に表示すること。連絡先については固定電話とし、携帯電話又はPHSのみは認めない。また、法人格を有しない団体の場合には、責任の所在を明らかにするために、代表者名を明記する。</p> <p>(5) 肖像権、著作権その他の知的財産権の使用については、無断使用がないか確認すること。</p> <p>(6) 宝石販売業については、虚偽の表現に注意すること。 例) 「メーカー希望価格の30%引き」等（宝石には通常、メーカー希望価格はない。）</p> <p>(7) アルコール飲料</p> <p>ア 未成年者の飲酒禁止の文言を明確に表示すること。 例) 「お酒は20歳を過ぎてから」等</p> <p>イ 飲酒を誘発するような表現の禁止 例) お酒を飲んでいる又は飲もうとしている姿等</p>

(8) 個人輸入代行業等の個人営業広告については、行政機関からの許認可が必要な事業の場合は、許認可を受けていることを明記すること。また、許認可の必要がない事業の場合は、事業内容、資格取得状況その他消費者がその事業を正確に判断できるような内容を明示すること。